

Title	子どもの生と死：周産期医療から見えること実施結果：アンケート集計結果の概要(総合研究所 News：カウンセリング研究センター講演会)
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.4, 2012.2：34-36
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3697
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

カウンセリング研究センター講演会
子どもの生と死
—周産期医療から見えること—
実施結果—アンケート集計結果の概要—

高齢化時代の到来で、医療、看護、介護での老後の生活が多く議論を呼んでいます。それと平行して、医療現場では、新生児医療が急速に発達し、超未熟児の生命も救われ立派に育つ時代を迎えています。しかし、重度障害を負った患児にも苦痛の伴う延命医療が行なわれているのが現状です。その結果、苦痛の内に亡くなる新生児がいます。今回のシンポジウムは新生児医療の最先端で多くの未熟児や障害児の生命を救い、また、看取ってきた元淀川キリスト教病院副院長船戸正久医師から新生児の生命の大切さについて講演していただきます。

日 時 2011年12月16日（金）14：00～16：30
場 所 聖学院大学ヴェリタス館教授会室

【プログラム】

挨拶 阿久戸光晴（聖学院大学理事長・学長）

講師紹介 平山正実（聖学院大学大学院教授）

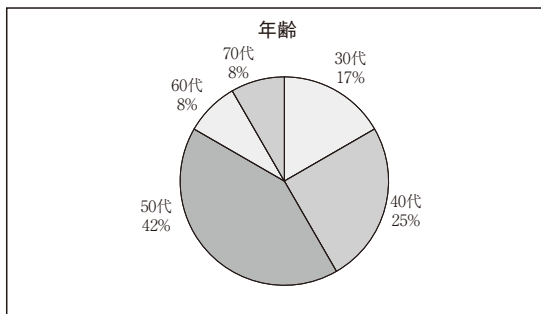
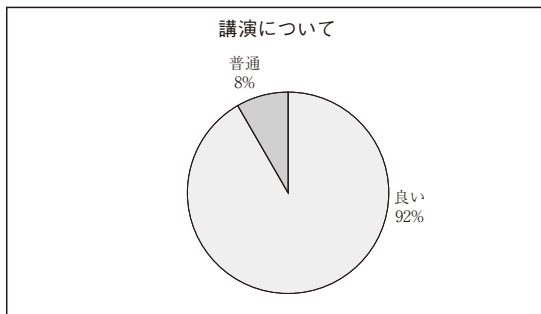
講演 「子どもの生と死一周産期医療から見えること」

船戸正久（大阪発達総合療育センター重症心身障害児施設フェニックス園長）

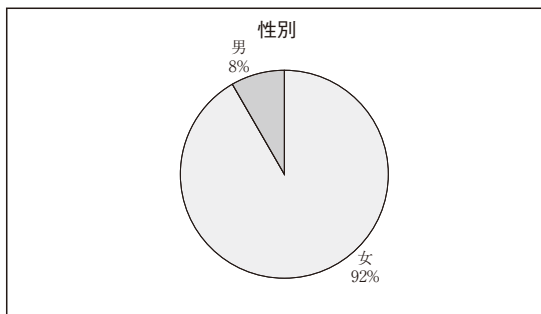
質疑応答

【集計結果】

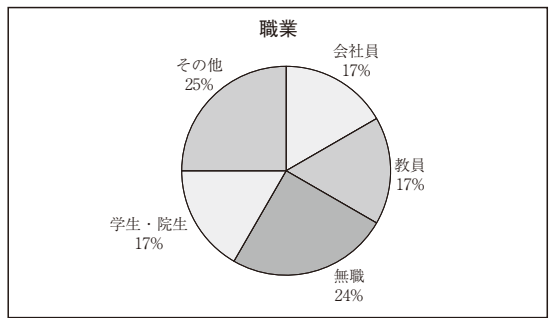
- ・参加者は28名。内アンケート回答者は12名。
- ・講演について、「良い」という意見が92%だった。



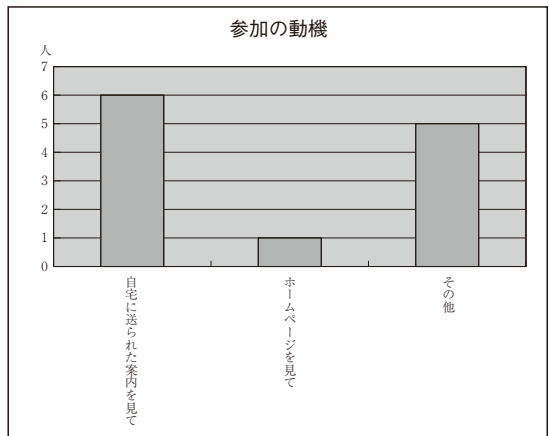
* 年齢は50代が最も多く、40代と50代で約7割を占めた。



* 女性が9割以上と大多数を占めた。



* 「その他」としては「看護師」「ヘルパー」など。



* 「その他」としては「前回の講演会で案内されて」「大学内で案内を見て」「知人の紹介で」など。

自由意見

- ・今日は船戸先生の貴重な「大切なのちに関わる生と死」ご講演をいただきまして、本当にありがとうございました。「ひとつひとつのかけがえのない命」がこの世に生まれ、その命が輝いて、生きて、その生を終えていくことの大切さと、そのようにできるようにみんなで支えていける日本の社会になっていったらいいなと、せつに思い、願い、これから活動していきたいです。ありがとうございました。お疲れ様でした。これからも、「かけがえのない命が大切にされ、祝福されて輝いて生きていけること」をテーマに生と死から、様々な角度から見つめられる講演会なども期待しています。
- ・新生児医療も高齢者、その他どの年齢でも、「看取り」への愛情と哲学という点では共通な課題が多く、大変参考になった。祖父母の最期

が積極的医療で、苦しいものにみえ、辛かった後悔からいろいろ学びたいと思うようになった。自然な、神の手に戻っていくような死は楽なものだという。(エンドルフィンなどがで)愛に満ちた見取りが、日本でもBasicなものになることを祈る。「重症児の幸せは周りの幸せに比例するのではないか」という先生の言葉は個人の幸せと世界の幸せの相互作用を連想させ、深いなあと思いました。

すごくいいお話だったのに、参加者が少なくてもったいないなと思いました。

- ・訪問看護をしています、終末期医療、ケアは成人、老人の関わりが大きいのですが、あらゆる命の尊厳は小さな命こそ、また大切に在宅で過ごさせてあげたいと思いました。大切なお話本当にありがとうございました。
- ・周産期医療も多方面から光をあて、求められているものを細かく知るよう努力して携わることの大切さを知る。命に関わる人すべてに求められる基本を知った。
- ・「人間をどう見るか」に尽きるお話だったと思います。これは教育の現場でも同じです。「いのち」を無視しては、医療も教育も福祉も、何ひとつ子どもに良いものを与えないのですから、私たちは「いのち」の視点から人間の社会を考えていかねばならないと思いました。
- ・重い問題ですが、考えなければならぬと思った。
- ・とても勉強になりました。



講演後には質疑応答が行われた



小さいいのちの尊厳と愛に満ちた看取りについての講演がなされた